

連合会ニュース

第 103 号 2010 年 1 月 1 日

鎌倉の自然を守る連合会 代表：奥田せい子・鎌倉山町内会・鎌倉山若松自治会・七里ガ浜自治会・七里ガ浜町内会
・七里ガ浜二丁目自治会・新鎌倉山自治会・南鎌倉自治会
ホームページ：<http://hiromachi.sakura.ne.jp/> 連絡先：佐々木修一（七里ガ浜町内会）TEL 090-7218-0902

「鎌倉の自然を守る連合会」は、広町の森の周辺 8 自治会・町内会により 1984 年に設立され、20 数年にわたり広町の森を開発から守る運動を展開してきました。2002 年に森の保全が決定し、現在は鎌倉市の都市林計画に基づき、地域住民として広町の森を都市林公園として後世に残していくための活動を行っています。

都市林公園としての保全を目指して

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

▲【連合会の責務】

2009 年世相を反映した漢字は「新」と発表されましたが、連合会も同年総会で新会長に私奥田が就任しました。広町緑地を開発から守り、市、国、県から多額の金で買い取った貴重な森をどのように保全し、維持管理していくか市民や連合会に課せられた責任は大きいのです。連合会は自治・町内会の団体として、里山の保全・再生・活用に関わり、よき都市林の構築に貢献していきたいと考えています。

▲【森の再生】

30 年もの間、事業者の手の中で放置された森は、枯れ木、倒木などで荒れ放題であった。しかし、市が所有し、市民の手が入り、田や畑の里山風景が再現されるとトンボや虫が飛び交い、草刈りや枯れ木を処理することによって、鬱蒼と茂っていた森に陽が差し込み、光を浴びた多様な植物が顔を出し始め、生態系が徐々に豊かになってきました。今や森は以前とは別の顔になり、森全体が生氣を取り戻し、蘇りつつあります。

▲【森の活用】

この森に今や多くの市民が訪れ、自然に触れ、フィトンチッドにより癒され、心の健康を取り戻しています。森や田・畑・小川の里山保全活動を盛んにし、子供やお年寄りだけでなく多くの人々がともに森で生き生きと活動し、交流出来る場となり、またボランティア活動を通して、ともに汗を流そうという人々がたくさん現れることを願って止みません

▲【次世代に引き継ぐ】

最近の子供達は「情緒的感覚が希薄になった」「感性に乏しい」などの声を耳にします。子供たち達の感性をゲームなどの無機質なものに導いたのは大人たちなのです。屋外での子供の体験場所が喪失している現在、幸いにも素晴らしい森が近くにあり、自然体験と情緒を養う格好の場がそこにあります。森に入り、堆積する落ち葉や土から生まれる命を自分の目で確かめ、生命が育まれることを目の当たりにし、「弱いものへのやさしさ」「生命の強さ」を森を通して学び、健全な人間社会の構築につながっていくことでしょう。この自然豊かな美しい里山風景と生活文化を次世代に伝えていきましょう。そのためにも後世に誇れる森作りに貢献し、子供達に森の文化を伝えていきたいと考えます。



鎌倉の自然を守る連合会
会長 奥田せい子

雑誌「新都市」の書評で運動史が紹介される

運動史「鎌倉広町の森はかくて守られた」は、昨年 12 月の発刊以来、多くの新聞、雑誌で紹介されてきましたが、一年を経た現在も書評欄で取り上げられています。この度も雑誌「新都市」(2009 年 10 月号)の書評欄で、国土交通省 都市・地域整備局 公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備室 古都・歴史文化係長の曾根直幸氏が、2 ページに亘り、詳しく本書を紹介くださいました。

“失われてはじめてその価値に気づくことの多い、一人一人にとってのふるさとのみどりを守りたいという想いから国土交通省で働くことを志し、短期間ではあるが公園の整備・管理の現場と法律や予算に関する霞が関での仕事を経験した。この 4 年間、みどりを守り育てる現場での作業の大切さ、制度が与える影響の大きさを、共に肌身で感じてきたところである。そして本書を読み、私の中の使命感はより強いものとなった。”(曾根氏の書評より抜粋)

晩秋の広町で「どんぐりと遊ぼう」開催

10 月 31 日、広町森の会、広町自然観察の会の協力を得て、鎌倉の自然を守る連合会を構成する広町周辺の自治・町内会の子供たちを対象に広町の森と親しむ催しを開催しました。当日は曇りつつない晴天で、74 名もの参加者で賑わいました。

すばらしくよい天気です。広場に全員集合。まず全員で“お早うございま〜す。”大きなでもう一度、“お早うございま〜す。”各地区順番に元気な声で“お早うございま〜す。”“これからみんなでどんぐりを拾って遊びます。”奥田リーダーの手の中からスタッフが作ったどんぐりの独楽、ブローチ、ストラップにジュズダマのプレスレット、ネックレスが次々に挙がる。みんな始めて見る(?) 工作品ばかり。おもしろそう、かんたんそう、むすかしそうの顔で眺め入っている。広町の森にはどんぐりのなる木は、コナラ、クヌギ、シラカシ、スタジイがあるが、谷戸、散策路上にコナラの木が多く、この実を拾うことになった。また今年も、6 年に 1 度の豊作年に当たるのか 9 月下旬から 10 月下旬まで沢山の果実が落ち、この日も十分に拾えた。各自治・町内会毎に 4 班に分かれてどんぐり拾いをしました。思ったより沢山の果実が落ちました。御所谷の水辺に果期が終わりにかけているジュズダマがオギと並んで多く見られた。“ジュズダマってあの数珠玉のこと?” “そう植物の名前でこの時期、苞鞘が灰白色になりとてもきれいになります。”さあこれでプレスレットを作りましょう。“また、川辺近くのカマツカの実が真っ赤に色づいていた。ブローチ、独楽、やじろべい、プレスレット、ストラップ、竹とんぼなどお好みのものを作りはじめました。スタッフのお兄さん(?) も、昔のやり方を思い出しながら一生懸命教えます。ブローチは幼児が、独楽は男の子、やじろべいは高学年の女の子やママと一緒に作った女の子、お友達のストラップも作った女の子、プレスレット作りをしたママ、小さい子みんなで飛ばした竹とんぼ、最後はみんなで「どんぐりころころ」の歌を合唱しお菓子を頂いて会を終えました。



参加された方の声

・お天気も良く、とても楽しいひと時を過ごさせていただきました。参加している子供たち、付き添いのパパやママや皆さん楽しそうにしているのが印象的でした。やはり子供は自然の中だと生き生きしますね。・子供時代に存分に自然を堪能し、豊かな風景を心にたくさん溜め込んで成長して欲しいものです。・たくさんのキットをはじめ、さそやご準備大変だったことと思います。うちの子供も、たいそう喜んでいろいろと製作に励んでいました。(私も数珠玉のプレスレットが気に入って、部屋に飾っております。)・心に残る一日となりました。どうもありがとうございました。・また機会がありましたらよろしくお願い致します。



(安倍・山田 記)